

東京農工大学大学院における教育研究上の目的に関する規程の一部改正

現行	改正	改正理由												
<p>本則 第1条 (略) (工学府における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)</p> <p>第2条 <u>工学府においては柔軟な発想力と確かな知識を持ち、独創的な「ものづくり」ができる学生及び高い倫理観と本質を見抜く卓越した能力を有する技術者・研究者の養成を目的とし、各専攻については、次のとおりとする。</u></p> <table border="1" data-bbox="168 691 1028 1297"> <thead> <tr> <th>専攻名</th> <th>人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生命工学専攻</td> <td><u>最先端の生命工学の専門家として、現在社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ、研究者・専門家・職業人として社会の中核で活躍できる人材を養成する。また国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせる。</u></td> </tr> <tr> <td>応用化学専攻</td> <td><u>持続型社会の形成に貢献するべく、資源・エネルギー・素材/材料・地球環境に関連する化学・技術的諸問題を解決し、先導的役割を果たす高度専門的指導能力を有する人材の養成を目的とし、さらにはその成果をもって全世界の平和と福祉に寄与する。</u></td> </tr> </tbody> </table>	専攻名	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	生命工学専攻	<u>最先端の生命工学の専門家として、現在社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ、研究者・専門家・職業人として社会の中核で活躍できる人材を養成する。また国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせる。</u>	応用化学専攻	<u>持続型社会の形成に貢献するべく、資源・エネルギー・素材/材料・地球環境に関連する化学・技術的諸問題を解決し、先導的役割を果たす高度専門的指導能力を有する人材の養成を目的とし、さらにはその成果をもって全世界の平和と福祉に寄与する。</u>	<p>本則 第1条 (略) (工学府における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的)</p> <p>第2条 <u>工学府においては自然環境と科学技術に関心を持ち、常に自己を啓発し、広い知識と視野を持ち、高い自主性と倫理性に支えられた実行力を有し、国際社会で活躍できる技術者・研究者の養成を目的とし、各専攻については、次のとおりとする。</u></p> <table border="1" data-bbox="1095 691 1955 1345"> <thead> <tr> <th>専攻名</th> <th>人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生命工学専攻</td> <td><u>最先端の生命工学の専門家として、現代社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ専門家として社会の中核で活躍できる研究者・技術者を養成することを目的とする。また、国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせる。</u></td> </tr> <tr> <td>生体医用システム工学専攻</td> <td><u>現代医療の根幹を支える生体医用工学の先端技術および関連する専門知識を修得させるとともに、異分野の専門家との協働を通じて、バイオメディカルイノベーションプロセスに基づいた実践的な研究開発能力を有し、多種多様な産業分野のシーズを医療・ヘルスケア機器開発に橋渡しできる、高度で知的な素養を備えた、国際社会で活躍できる研究者・技術者を養成することを目的とする。</u></td> </tr> </tbody> </table>	専攻名	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	生命工学専攻	<u>最先端の生命工学の専門家として、現代社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ専門家として社会の中核で活躍できる研究者・技術者を養成することを目的とする。また、国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせる。</u>	生体医用システム工学専攻	<u>現代医療の根幹を支える生体医用工学の先端技術および関連する専門知識を修得させるとともに、異分野の専門家との協働を通じて、バイオメディカルイノベーションプロセスに基づいた実践的な研究開発能力を有し、多種多様な産業分野のシーズを医療・ヘルスケア機器開発に橋渡しできる、高度で知的な素養を備えた、国際社会で活躍できる研究者・技術者を養成することを目的とする。</u>	<p>工学府の改組に伴う改正</p>
専攻名	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的													
生命工学専攻	<u>最先端の生命工学の専門家として、現在社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ、研究者・専門家・職業人として社会の中核で活躍できる人材を養成する。また国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせる。</u>													
応用化学専攻	<u>持続型社会の形成に貢献するべく、資源・エネルギー・素材/材料・地球環境に関連する化学・技術的諸問題を解決し、先導的役割を果たす高度専門的指導能力を有する人材の養成を目的とし、さらにはその成果をもって全世界の平和と福祉に寄与する。</u>													
専攻名	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的													
生命工学専攻	<u>最先端の生命工学の専門家として、現代社会のニーズに即応して活動でき、新たなニーズの発掘とシーズの発見能力に富んだ専門家として社会の中核で活躍できる研究者・技術者を養成することを目的とする。また、国際性、コミュニケーション能力、国内外の学会発表や論文発表ができる能力を身につけさせる。</u>													
生体医用システム工学専攻	<u>現代医療の根幹を支える生体医用工学の先端技術および関連する専門知識を修得させるとともに、異分野の専門家との協働を通じて、バイオメディカルイノベーションプロセスに基づいた実践的な研究開発能力を有し、多種多様な産業分野のシーズを医療・ヘルスケア機器開発に橋渡しできる、高度で知的な素養を備えた、国際社会で活躍できる研究者・技術者を養成することを目的とする。</u>													

機械システム工学専攻	物理・数学及び機械工学の専門知識と応用力を身につけ、環境と調和する Unique & Best な機械システムの理想像を追求し、国際社会と世界の文化に関して深い理解と洞察ができ、豊かなコミュニケーション能力で国際的に活躍できる人材の養成を目的とする。	応用化学専攻	化学と物理の基盤的学力と、応用化学、材料科学、および関連する分野に関する専門知識に基づき、自然・生命・環境・エネルギー等の分野に関連する化学者・材料科学者として、高度専門的な科学技術の発展に指導的立場を担い、安全安心な持続型社会の形成に貢献し、豊かなコミュニケーション能力で国際的に活躍できる研究者・技術者を養成することを目的とする。
物理システム工学専攻	高度な物理の基礎と専門教育により、各専門分野の研究・開発の現状、その概念・方法を学ぶとともに高い論理的思考能力を培い、直面する課題に対して物理学的視点・方法から問題を発見・分析して、その解決策を実践的に展開させる能力を持つ人材の養成を目的とする。	化学物理工学専攻	エネルギー、環境、新素材等に関連する諸問題を化学工学・物理工学の深い専門的知識の 統合的理解と活用によって解決する能力と、先導的役割を果たす高度専門的指導力を有することで、持続型社会の形成に貢献し社会的・国際的に活躍する研究者・技術者を養成することを目的とする。
電気電子工学専攻	現代社会の根幹を支える電気電子工学の先端技術動向及び関連する専門知識を修得させるとともに、各専門分野の研究活動参画や企業活動への共同参画を通じて、社会的ニーズに基づいた実践的な研究開発能力を有する、電気電子工学技術の発展に寄与する人材を養成する。	機械システム工学専攻	数学・物理学の高い基盤的解析能力と機械システム工学の幅広く深い専門知識に基づいて、環境と調和して持続発展可能な科学技術立脚社会をグローバルスケールで実現するための Unique & Best な先端的機械システムを設計・創造し、世界の社会・文化に関する深い理解・洞察と豊かなコミュニケーション能力で国際的に活躍できる研究者・技術者を養成することを目的とする。
情報工学専攻	情報工学に関する深い知識に基づき、新しい情報理論・概念を創造し、より完成度の高いシステムを造り上げていく高度な能力を持つ人材の養成を目的とする。その目的の達成のため、自らの手で研究開発を推進する実践型教育を重要視するとともに、対外発表等を通じて学際性や国際性を涵養する。	知能情報システム工学専攻	現代社会の根幹を支える情報工学、電気電子工学の先端技術及び関連する専門知識を修得させるとともに、社会ニーズに基づく新たな知能情報システム工学を探求・考察し、専門が異なる者との協働を通じて創り上げる高度な研究開発力を備え、国際的に活躍できる研究者・技術者を養成することを目的とする。
電子情報工学専攻	物理学、電気電子工学、情報工学の各分野の先導的な学識を教授し、また自立した研究者に相応しい課題発掘能力、実践的研究能力、技術開発の展開能力、国際性と情報発信能力、社会的ニーズに対する柔軟性などを涵養して、当該分野や分野横断的な未知の課題の解決に対応し得る人材を養成する。		

(略)	(略)	
第3条～第5条(略)	第3条～第5条(略)	

附 則 (令和5年4月1日教規程第14号)

- 1 この規程は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 令和5年3月31日現在在学している者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。